

# 地域社会・マスコミ等との連携 による国有林のPR活動

久々野高山営林署 地域振興センター 企画係長 谷澤 功志

## 1 目的

長期にわたる材価の低迷等により、林業界全体が活力不足で経営困難な状況にあり、森林施業に力が入りづらい状況下にある。その反面、国民の森林に対する期待は、最近のマスコミ報道等からも、公益的機能の高度発揮・多様な活用要望等相当な高まりがあることが伺える。

しかしながら、国有林の果たしている役割や、営林署の業務内容等が、一般市民の方に十分に知られていない現状にある。

そこで、久々野高山営林署では、今までのPR不足及び方法の反省をおこない、国有林はもとより林業界全般への理解を深め、森林・林業の活性化につなげようと、外部との積極的な交流の場の設定等を行い、宣伝効果の高いマスコミに積極的にPRの協力依頼し、さまざまな取り組みを行ったので報告する。

## 2 活動内容

### (1) 地域との連携

- ① どすこい祭り (朝日村主催)
- ② 日本一かがり火祭り (高根村主催)
- ③ 清見ふるさと祭り (清見村主催)

上記の各種イベントにおいて、木工品・林産物の販売及び、竹とんぼ・カナリヤ笛の製作体験指導を行う中で、国有林の役割等のPRを行った。

各地のイベントでの評価は、営林署コーナーはユニークな存在であり、引き続き次回への強い出店要請を受けた。

### ④ 森の産物市

署会議室及び駐車場を利用して久々野町森林組合の協賛を得て、森林PRのパネル展示・森の産物販売を行った。当日は事前に、パンフレットの配布活動や新聞社等数紙に報道されたことによって多くの人出があり、特に花餅の株や、クリスマスツリーなどの季節感のあるものが好評で、追加予約まで受けた。

なお、当日の取材も多数あり、3紙に報道された。

## ⑤ 植樹祭

市政60周年を迎えた高山市の協賛により、高山市城山公園整備事業をかねて実施した。例年奥山で実施していたが、今回近郊地で開催したことにより一般市民の方にもPR出来るものとなった。

植樹祭の記事は、6紙に掲載された。

## ⑥ 森林教室

地元小学生及び一般市民を対象に行ったが、最近では、実施の報道・ロコミ等により、他からの開催要望も出てくる等の広がりを見せている。

## (2) マスコミ関係者等との連携

### ① 報道関係者の現地案内

地元の新聞記者を、年2回国有林の現地に案内し、事業の説明・署の取り組み状況及び、林業界の現状等を説明し、理解を求めると共に森林・林業のPR依頼を行った。

この現地案内も、営林署の事業紹介として多くの新聞記事となった。

### ② 田山市議会議員団等の現地案内

市議会建設委員会からの依頼により、高山市の水源地でもある宮国有林において、水源地かん養機能を重視した森林施業の状況及び、水源地域緊急整備事業の説明を行い理解を深めた。

## (3) 他官庁との連携

### ① 飛騨県事務所林務課との技術交流

流域林業の発展を図るため、当署が窓口営林署となり宮・庄川流域関係4営林署及び飛騨県事務所林務課と年2回技術交流会を行ない、技術及び意思疎通の場としている。

今年度の、交流会の記事は2紙に掲載された。

### ② 乗鞍岳高山植物保護パトロール

入り込み者の多い期間にアルバイトを含めパトロールを行っており、更に最盛期には合同パトロール（環境庁・警察署・道路公社・丹生川村・山小屋関係者・松本営林署）を実施し、広く高山植物の保護啓蒙を行った。

この活動は、5紙の新聞記事となった。また、保護活動の一貫として行っている植生復元も4紙に掲載された。

### ③ 森林火災防止パトロール

山菜取りの入り込み者が多い6月の毎週末に、営林署員と警察官とがペアになり、山火事防止・遭難事故予防のパトロールを実施した。

2紙の記事となり活動の効果が上がると共に、行動がPRされた。

### 3 結果

- (1) 営林署の多様な活動状況が、数多くの新聞等に掲載され広くかつ効果的にPR出来た。
- (2) 森林教室・イベントを通じた森林とのふれあいの場の創設により、国有林への理解と関心が高まった。
- (3) 各種行事の準備・実行に多くの職員が関わり、職員の一体感の醸成と職場の活性化がはかられた。また、副産物の販売により収入の一助となった。

### 4 終わりに

林業界の活性化及び国有林への支援強化には、まず森林の役割、国有林の活動状況を広く伝えることが重要であり、当署は、その方策としてマスメディアと連携した活動に取り組んだ。その結果は、想像以上に効率的で成果の上がるものであった。このような取り組みが、各地で広がることを願い、当署も引き続き、1人でも多くの緑の応援団作りに努めていきたい。